令和３(2021)年度 基盤研究（Ｓ）審査結果の所見

研究課題名	多元自動通訳システムと評価法に関する研究とその応用展開
研究代表者	中村　哲 （奈良先端科学技術大学院大学・データ駆動型サイエンス創造センター・教授） ※令和３(2021)年７月末現在
研究期間	令和３(2021)年度～令和７(2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	【課題の概要】 本研究では、同時通訳を、通訳者の視点、情報学研究からの視点及び利用者の視点の３方向から多面的に捉え、人間の通訳者の処理方法、機械での実現可能性、人間による通訳内容の認知や理解を総合的に解明しようとするものである。人間の同時通訳の理解と機械による実現を目指して、三つの課題（多元同時通訳方式、通訳品質の評価法とリアルタイム評価技術、コーパス構築とシステム）を設定し、開発を進める。 【学術的意義、期待される研究成果等】 本研究は、同時通訳における３方向の視点から多元自動通訳システムの評価法を開発するという意欲的な提案であり、学術的意義や問いも明確で、高い独自性と創造性が認められる。 また、世界的に高性能で利便性の高い自動通訳システムの実現と通訳品質評価法の構築が期待できるだけでなく、音声言語や意味理解に関する人間の情報処理機構の解明にもつながるなど、社会的インパクトのある研究成果と大きな波及効果が期待される。